令和８年８月小矢部市教育委員会定例会（書面報告）概要

本市においてレベル４土砂災害危険警報が発表されたこと、また、定例会に付議すべき議案がなかったことから、急遽、定例会を休会とした。報告事項については、書面による報告とすることとした。

１　報告日　　令和８年８月27日（木）

２　委員　　１番　沼田　勉（教育長）　２番　笹島　康代　３番　石野　昌一
　　４番　塚崎　志津江　　５番　前田　智嗣

３　報告事項

１　小矢部地区教職員組合からの要望に対する回答について
２　令和８年度長期欠席等児童生徒の支援状況調査集計（１学期分）について
３　令和８年度小矢部市ヤングケアラー実態調査の結果について

４　質疑及び回答

報告事項１	「小矢部地区教職員組合からの要望に対する回答について」
質疑	８ページ（２）②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の生徒指導関係の校内会議への参加目標を80％とする回答がされているが、どのような観点から数値目標を設定されたのか。 校内会議に参加することによって、児童・生徒・保護者等からの相談や面談の時間が削られることを心配している。校内会議に参加するための予算を要望していただくようお願いしたい。
回答	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが、生徒指導関係の校内会議に参加し、チームで支援が必要な児童生徒・家庭への対応を行うことが重要であることから、児童生徒の心理的見立てや支援の方向性についての専門的な助言や教職員との連携のため、会議に関わっていただく目標数値として設定した。 校内会議への参加によって、相談や面談の時間が削られることのないように、現場の実態を把握しながら、市で必要となる経費について予算措置に努めるとともに、配置時間の増についても県に対して要望をしてまいりたい。
報告事項２	「令和８年度長期欠席等児童生徒の支援状況調査集計（１学期分）について」
質疑	不登校について、把握した事実として多かった項目の中で気になるのは、「９．生活リズムの不調に関する相談があった」ことである。生活リズムの不調の原因として、よく言われるのが、ゲーム等を夜中までしていて、朝、起きられないと話される保護者の多さに驚いている。昼夜逆転してしまいどうにもならない状態になり、困っておられる保護者もいる。生活リズムの不調に関することについて、どのような手立てをすればよいか真剣に考える必要があると思う。 不登校児童生徒の保護者は、大変不安を抱えている。忙しいと思うが、引き続き、保護者への定期的な連絡や家庭訪問・面談をよろしくお願いしたい。

回答	ご指摘のとおり、生活リズムの乱れは、保護者にとって深刻な悩みである。 スマホやゲームによる夜更かしが原因である場合は、家庭でスマホの使用ルールをつくることをしている家庭はあるが、家庭だけで使用のルールを決めるのが難しい場合、スクールカウンセラー等を交えて本人が納得できる利用ルールを話し合う場を設けることも考えられる。昼夜逆転が長期化している場合には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を通じて、必要に応じて医療機関つなぐことも必要だと考える。 また、本人が抱える不安やストレス等が背景にある場合もあるため、教員やスクールカウンセラーが本人への心理的なサポートをすることも必要である。 学校・家庭・専門機関等が連携し、保護者や本人の思いに寄り添いながら、実効性のある支援を継続してまいりたい。
報告事項３	「令和８年度小矢部市ヤングケアラー実態調査の結果について」
質疑	自分がヤングケアラーにあてはまると回答した小学生が８名、中学生が４名、その中でＱ６「家族の中にあなたがふだんからお世話をしている人がいる」と回答した小学生２名、中学生３名について、ヤングケアラーといえるのか。どのように判断されたのか。 このヤングケアラー実態調査の結果を、今後どのように活かしていく予定か。
回答	お尋ねの５名については、「お世話をすることでできないこと、困っていることはありますか」の問いに、４名は「特になし」と回答しているものの、１名は記載があり、その他の項目における回答内容についても気になる状況があると思われた。 しかしながら、今回のアンケートは任意の記名式としており、５名についてはいずれも氏名の記載のない方であった。 このことから、調査結果を所属学校に提供したが、直接の相談等にはつながっていないことから、実際にヤングケアラーであるかの判断には至っていない。 実態調査を継続することでヤングケアラーについての理解が深まることが期待される一方、調査によって把握したお子さんに支援の手が届くよう、次年度以降の調査項目等について校長会からもご意見をいただきながら検討してまいりたい。